

<授業概要>

研究授業（11:30～12:15）

① 国語科 中学 2 年 AL コース 鬼塚 誠太郎

単元名：「クラスのロゴとコピーを考案して提案しよう」

内容：職業体験、沖縄平和研修を控えた中学 2 年生は社会との接する学年であるが、自分たちが所属するクラスについてロゴ（マーク）やコピー（キャッチフレーズ）を考案して提案書に落とし込み、プレゼンを行う。提案書を作成する過程で、どのような表現が適切なのか「書く」ことを通して他者に自分たちの思いを伝えることの難しさに挑戦したい。

② 国語科 高校 3 年 GE コース 太田 知佳

単元名：「語ること 語りえないこと」

内容：「舞姫」は主人公太田豊太郎がドイツでの留学を終え帰りの船の中でまとめられた手記である。豊太郎は頭を悩ませる「人知らぬ恨」を「いかにしてか此恨を銷せうせむ」と書くという行為に向かう。書くという語りの装置によって描き出された「舞姫」の中で豊太郎が語ること、語りえないことを考察することによって私たちにとって「書く」営みの価値について考える。

③ 数学科 中学 2 年 AL コース 原澤 研二

単元名：「円」

内容：中学 2 年生の幾何の授業においては、「授業動画」予習し、問題演習を中心とした授業をするという形の反転授業を実践している。中学校の幾何分野において、難易度の高い問題であっても粘り強く考える思考力を養うことと、その思考プロセスを「証明・答案・発表」などの形で言語化することを目指す。

④ 数学科 高校 2 年 SS コース 廣松 光一郎

単元名：「統計的な推測・平均値の推定」

内容：本単元では、不確定な事象を数学的に考察する方法を学習する。本時は、母集団の「真の平均値」を推定する際に用いられる信頼区間について取り上げる。特に、区間推定の意義と信頼区間の正しい解釈に焦点を当てる。ICT やデータの可視化を活用し、概念理解を深めるとともに、生徒が自ら深い問いを立てる経験やグループでの話し合いを通じて、探究活動におけるより深い考察へとつなげることを目指す。

⑤ 理科 物理 高校 2 年 MS コース 鍵山 千尋

単元名：「科学的探究とはなにか」

内容：高校 2 年生物理選択講座（力学履修済、電磁気分野の「電流」まで学習済）を対象に、科学的探究の枠組みを体験する授業を行う。共通のテーマを与え、各班は異なる実験的アプローチを自ら立案することで、同一の問いに多様な検証方法が存在することを学ぶ。実験計画から考察に至る過程を通じて、根拠に基づく議論の意義を実感し、科学的思考の多面的な在り方を理解することを目指す。

⑥ 芸術科 美術 中学3年 ｺﾌｺｰｽ 米永 忠裕

単元名：「出征前対話型描画 ～もし出征するなら、あなたは最後に何を描きますか?～」

内容：導入として、無言館の絵画を用いた対話型鑑賞を行い、画学生が、出征前にどのような思いで対象と向かい合い、描く時間を過ごしたのかを考える。それを踏まえ、自分ならどのような対象とどのような描画の時間を過ごすのかに思いめぐらせながら、テーマ設定、実制作をおこなっていく。

⑦ 技術家庭科 家庭 高校2年 SSコース 糸井 駿平

単元名：「よりよい家庭と共生社会を目指して」

内容：前時の授業で、妊婦体験と高齢者体験を同時に行う予定である。体験を踏まえてグループごとにフィードバックをしつつ各グループを一つの家庭としてロールプレイング的に役割を与える。それぞれの役割の立場からよりよい家庭や地域社会をつくるにはどうすれば良いかを協働的に考え対話し、思考・判断・表現をする。それによって現在の家庭やこれからの家庭、地域などの一員として自覚・自立し、家族や他者と共生していくことを目指す。

⑧ 外国語科 英語 中学3年 MSコース 松尾 由紀/Reynolds

単元名：「Introduction to Critical Thinking: Building Higher-Order Thinking Skills」

内容：本単元は、様々な種類のテキストを「正確に理解すること」でとどまらず、「統合的および批判的に」「活用する」力を鍛えることを目的としている。言い換えれば、目的のための情報「選択」、内容の「分析」、「評価」という高次の認知能力を英語でも発揮できるようにするための活動である。本時は、推論・判断の誤りや情報処理の偏り、認知バイアスなどの論理的誤謬 (logical fallacies) 事例も援用しながらテキストを分析し、最終的には提示された情報のどの部分がどのような理由で不十分もしくは誤りであるかと考えるのかについて指摘できることを目指す。

⑨ 外国語科 英語 高校3年 SSコース(SSG) 武田 菜々子

単元名：「CNN: News report “Creating Soft Can Be Hard”」

内容：科学技術を扱ったオーセンティックな英文を素材とし、未知のトピックに対しても柔軟に理解し、自らの意見を英語で発信する力を養うことを目標とする。本時は CNN News の「ソフトロボティクス」を題材に、映像や教師の scaffolding を手掛かりに要点を把握し、ペアやグループでの説明・意見交換を通して理解を深める。最終的に新しい活用事例を考え、英語で提案する活動を通じて、国際的な議論に必要な思考力と発信力を育成する。

⑩ 課題研究科 中学2年 ALコース 長野 博樹/折田 浩一

単元名：「ものづくりを題材にした PBL 学習『オリジナル便利グッズ開発』」

内容：チームで身の回りの不便や困りごとに目を向け、ものづくりを通して課題を発見・設定し、ニーズや解決方法を考える。また、自チーム・他チームや既存の商品の優れているところや改善点について考え、使用者の満足度が高くかつ現実的な商品を企画する力を高め、探究の基礎（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を学ぶ。本時では、完成したオリジナル便利グッズの発表会を行う。